

学 校 教 育 目 標	『より高く、より広く、より深く、より強く』 ～自立・共生・錬成～
目 指 す 学 校 像	保護者、地域から信頼される学校
重 点 目 標	1 未知の問題に対応できる生徒の育成 2 生徒が主体となる学校づくりと誰一人取り残さない教育の実現 3 「つながる、いかす」をテーマにした地域・保護者との連携 4 生徒が安心して、安全に通える学校づくり 5 教職員がやりがい、働きがいのある学校づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○「年間授業日数 205 日以上」の規定が撤廃され、学びの質の向上が求められている。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、全国、県、市平均と比べ、学習の定着度は良好な結果である。 〈課題〉 ○授業の様子ですぐに正答を知りたがる傾向が強く、学習したことを活用することや深く学ぼうとすることに課題がある。 ○一人一台端末を効果的に活用した授業改善。	学びのポイント 「じ・し・ゃ・く」で学習の質的 向 上 を 目 指 す。	○学びの指標を意識した授業を展開し、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を図る。 ○DX 推進教職員を中心に、ICT の効果的な活用について研修等で共有を図る。	○学びの指標の「主体的な学び」「探究的な学び」「ICT の効果的な活用」の項目の前期よりも 0.2 ポイント以上上昇している。					
		教科横断的な視点に立った授業改善に取り組み 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を高める。	○複数教科で混合のグループで授業を見せ合い、教科横断的な視点に立った授業改善に取り組む。 ○外部講師を招聘し、「教科横断的な視点に立った授業改善」について、講義や指導をいただく。	○生徒アンケートで「初めて見る問題に挑戦することが好きだ」の項目70%以上「初めて見る問題を解決することが得意だ」の項目で50%以上の肯定的な回答を得る。 ○教員一人1回以上の研究授業の実施と授業実践の蓄積					
2	〈現状〉 ○学校内外で生徒が主体となって取り組む機会を増やしている。 ○週1回の教育相談部会や生徒指導部会で生徒理解等に組織的・計画的に取り組んでいる。 〈課題〉 ○年間 15 日以上欠席生徒は 13.1%(R7.1)、「心と生活のアンケート」(R7.1 実施)における面談対象者は 7.5%が該当している。 ○生徒理解と個別的且つそれぞれの特性や環境に応じた柔軟で包括的な支援の実現。	生徒の主体的な活動機会の確保と自己肯定感や自己有用感の向上。	○学校内外機関と連携し、生徒が主体となる活動機会を増やす。 ○生徒の活動の見守りと適切な評価 ○保護者、地域に向けた生徒の活躍や頑張りの積極的な情報発信 ○あいさつ運動のさらなる推進	○「あなたにとって学校生活は楽しく充実していますか」の項目で 94 %以上 (R6：94%) ○教職員と生徒が笑顔で「おはよう」、「さようなら」が言える学校づくりを実現する。					
		個別的・包括的な生徒理解と支援の実現と計画的な教育相談活動。	○教職員の教育相談活動に関する知識・技術の向上のため、外部から専門性を有する講師を招き研修等を行う。 ○生徒の自己実現や援助希求能力の育成のため、他職種等と連携し道徳やいのちの支え合いの授業を実施する。	○教職員一人ひとりの教育相談に関する知識・技術の習得と向上を目的とした校内研修が実施できたか。					
3	〈現状〉 ○地域での活動やイベントが増え、中学生のかかわりを期待されることが多くなった。 ○地域での生徒の様子について、お褒めの言葉や問い合わせが増えてきている。 〈課題〉 ○さいたま市学力学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合 (79.0%) が、市の平均 (79.3%) を下回っている。	地域（保護者）へ積極的な情報発信と学校での地域の子どもの可視化。	○ホームページや学校だよりに学校運営協議会の様子や地域での生徒の様子を掲載する。 ○保護者に学校行事や授業を参観できる機会を多くする。	○ホームページや学校だよりに地域の様子や学校運営協議会の様子を掲載できたか。 ○保護者に学校行事や授業を参観できる機会を多くする。					
		生徒の地域ボランティアやイベントへの積極的な参加。	○地域の自治会等と連携を図り、地域で行われるさまざまなイベント等について積極的に参加を促していく。 ○地域と連携した学校の取組を充実させたり、増やしていく。	○地域での様々なイベントやボランティア活動に、生徒が参加できたか。 ○地域の人材や施設を活用し、学校における活動や授業等を充実させることができたか。					
4	〈現状〉 ○校舎や体育館など、老朽化が見られる。 ○今年度 2 月に体育館に空調設備が取り付けられる予定である。 ○防災に関して「引き渡し訓練」の見直しなど行い、訓練を実施する。 〈課題〉 ○修繕箇所等の迅速な対応 ○若手教職員の増加等のため、危機管理対応マニュアルに沿った研修等を通して、実践力を高め必要がある。	美しく安全で安心できる学校環境の整備。	○安全主任、事務、教頭と連携し、毎月の安全点検の確実な実施と迅速な修繕箇所と環境美化の対応を行う。 ○管理職による定期的な巡回により学校の校舎内外の安全点検を行う。	○学校評価教職員アンケートで①「修繕必要箇所について迅速に対応している」の項目で（そう思う A）を 40%以上にする。（R6：35%）					
		危機管理対応マニュアルに沿った研修や訓練を通して、教職員や生徒の実践力をつける。	○危機管理対応マニュアルを全職員で確認する機会を定期的にもつ。 ○避難訓練等の実施後、教職員の振り返りだけでなく、安全主任や運営委員会委員と振り返りを実施し、必要に応じて危機管理対応マニュアルを見直す。	○研修や訓練等を通して、常に危機管理対応マニュアルを意識し、見直し等を図ることができたか。					
5	○授業等での効果的な ICT 活用について、校内研修を重ねてきたことで、ICT を活用する教員が増えるなど、ICT スキル向上が見られる。 ○データの利活用を要とした「学び方改革」が示されている。 〈課題〉 ○学校教育において、ICT を活用した学びを通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが求められている。 ○若手や教職員年数の短い教職員の人材育成と職場環境の向上が求められている。	○ I C T を活用した（データの利活用も含む）主体的で対話的な深い学びを通した授業改善 ○若手教員の人材育成と職場環境の向上	○ICT を活用した研修等を実施して、授業力向上を図る。 ○教育研究所の希望研修や他校の授業研究会、スタディサプリやミライシードのオンライン研修会等に参加して、授業力の向上を図る。 ○若手教員を対象に、市の教育行政施策等に関する学習会を実施する。 ○若手や教職員経験年数が短い職員を中心に管理職と定期的な面談を実施し、現在の状況の確認と今後の課題等について話し合う機会をつくる。	○ICT の活用にかかわる研修を年 5 回以上行う。 ○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場に自分の目標、ロールモデルとなる教職員はいますか？」の肯定的回答が 60%以上。（R6 は 56%） ○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場で業務について相談できる教職員はいますか？」の肯定的回答が 80%以上。（R6 は 76%）					

